

澁澤賞

澁澤元治博士文化功労賞受賞記念事業委員会
一般社団法人 日本電気協会



澁澤賞について

澁澤元治博士は、明治39年に通信省に入られてから18年間にわたる在任中、電気試験所第1部長、同第3部長、電気局技術課長を歴任されました。

この間、「電気事業法」および現在の「電気設備技術基準」の前身である「電気工作物規程」の制定、また電気主任技術者制度の改革に尽力されるなど、電気保安体制の確立に大きな功績を残されました。

一方、電気工学の教育分野においても、大正7年に東京帝国大学工学部電気工学科の講師、同教授、工学部長を歴任し、後に名古屋帝国大学の初代総長として同大学の創設に奔走されるなど、28年間にわたり電気工学の教育に半生を捧げられました。

昭和30年11月3日、長年にわたり我が国の電気事業に貢献された功績により文化功労者として名誉ある表彰をお受けになりました。

この博士の榮譽をお祝いするとともに、永く記念するために、有志の方々により澁澤元治博士文化功労賞受賞記念事業委員会（略称：澁澤委員会）が設立され、昭和31年から澁澤賞表彰が行われるようになりました。

現在は、電気の保安について、有効なシステム、機器の発明工夫・設計施工、電気に関する技術規格・基準の制改定、学術研究、人材育成ならびに長年にわたり電気保安の確保に優れた貢献をされた方に澁澤賞を贈呈しております。

受賞者の発表は、毎年11月3日の文化の日に行われ、同月下旬に挙行される贈呈式において、賞状、記念品を受賞者にお贈りしております。



しぶさわもとじ

工学博士
正二位勲一等瑞宝章
日本学士院会員

澁澤元治の生涯

澁澤元治博士は、明治から大正・昭和にわたる日本の電気事業の創成期にあって、最も指導的な役割を果たし、その基礎を築いた最大の功労者と言えます。

「日本資本主義の父」と称えられる澁澤栄一の甥にあたる澁澤元治を知る人はまだまだ少数です。しかし、現代日本の産業に及ぼしている実際的な貢献度から言えば、栄一に決して勝るとも劣りません。むしろ、澁澤元治が追求した「電力立国」の理念は、時代とともにその輝きを増してきています。

明治9年10月25日、澁澤元治は埼玉県血洗島村（現深谷市）の農家に生まれました。母の貞子は澁澤栄一の末妹であり、元治は栄一の甥にあたります。幼少時代から優秀だった元治は、高等小学校を卒業すると、父市郎の反対を押し切って上京し、明治30年に東京帝国大学電気工学科に進学しました。

明治35年5月、元治は伯父の澁澤栄一に連れられて海外に渡航し、欧米先進国で電気に関する技術を修得しました。

明治39年、日本に帰国した元治は、逓信省に入って逓信技師となり、創成期にあった電気事業の育成に尽力しました。明治44年に制定された電気事業法と電気工作物規程の作成にあたり、元治は主査を担っています。

大正13年、逓信省の技術課長を辞した元治は、東京帝国大学工学部の専任教授に就任しました。昭和4年には、同大学の工学部長に選ばれています。

昭和12年、東京帝国大学を退いた元治は、新たに設立された名古屋帝国大学の初代総長に就任しました。昭和15年の開学にあたり、澁澤元治総長は、座右の銘である「以和為貴」（「和を以って貴しと為す」）を大学の標語として掲げました。

終戦後の昭和21年1月、名古屋大学総長を辞任して妻とともに故郷血洗島に帰った元治は、昭和30年に、電気関係では初の文化功労者として表彰されました。これを記念して、翌昭和31年に「澁澤賞」が創設されました。

昭和50年、元治は99歳で永眠しました。同じ家郷を出た澁澤栄一と元治の二人は、それぞれがわが国の経済立国と電力立国を担ったのです。

澁澤元治年譜

西暦	元号	年齢	経歴
1876	明 9	0	誕生（10月25日）
1881	明14	4	小学校入学
1887	明20	10	榛沢高等小学校第3年編入
1889	明22	12	同校卒業 東京神田駿河台成立学舎入学 東京府立尋常中学校第2学年編入
1893	明26	17	同校卒業
1894	明27	18	第一高等学校農科入学 第3学年時 電気工学科に転科
1897	明30	21	同校卒業 東京帝国大学電気工学科入学
1900	明33	24	東京帝国大学電気工学科卒業 中野鉄道大隊に入隊
1901	明34	25	古河鋳業会社に入社
1902	明35	26	伯父 澁澤栄一とともに海外視察 独、シーメンス社工場の実習生となる
1903	明36	27	スイス・チューリッヒ工科大学聴講生
1904	明37	28	渡米、セントルイス万国博覧会審査員 GE社に実習生として入社
1906	明39	30	帰国、穂積陳重・歌子の娘、孝子と結婚 逓信省電気試験所に入所
1909	明42	33	日本電気規格調査会委員長
1910	明43	34	母貞子逝去
1911	明44	35	工学博士号を受ける 電気事業法・電気工作物規程公布
1914	大 3	38	電気試験所第一部長
1917	大 6	41	同試験所第三部長 父市郎逝去
1918	大 7	42	米国、カナダの電気事業調査 東京帝国大学電気工学科講師
1919	大 8	43	東京帝国大学教授（兼務）逓信省電気局技術課長
1920	大 9	44	電気主任技術者制度の改革
1921	大10	45	パリ、第1回国際大電力システム会議（CIGRE）に出席
1924	大13	48	電気学会会長に就任 技術課長退官 東京帝国大学専任教授

西暦	元号	年齢	経歴
1929	昭 4	53	東京帝国大学工学部長
1931	昭 6	55	伯父澁澤栄一逝去
1937	昭12	61	東京帝国大学退官
1938	昭13	62	電気工学初の日本学士院（当時帝国学士院）会員
1939	昭14	63	名古屋帝国大学初代総長に就任
1943	昭18	67	勲一等瑞宝章受章
1944	昭19	68	日本電気協会名誉会員
1946	昭21	70	名古屋大学総長を辞任
1955	昭30	79	孝子夫人逝去 文化功労賞受賞 日本電気協会内に「澁澤元治博士文化功労賞受賞 記念事業委員会」設置
1956	昭31	80	第1回澁澤賞
1975	昭50	99	老衰により埼玉県深谷市にて逝去（2月22日） 享年100歳（数え年）



第1回澁澤賞贈呈式で挨拶する澁澤博士

澁澤元治博士文化功労賞受賞記念事業委員会
一般社団法人 日本電気協会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1
有楽町電気ビルヂング北館4階
TEL：03-3216-0551/FAX：03-3216-3997
URL：http://www.denki.or.jp/